

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

祇園祭と川床の意外な関係

八坂神社では七月の十日と二十八日、三基あるお神輿のうち、スサノオノミコトの乗り物とされる中御座の神輿だけを、すべての飾りを外し、四条大橋の上まで運び、朝から汲んでおいた鴨川の水をかける「神輿洗い」という神事が行われます。そしてこの神輿が通る石段下から四条大橋までの道を大松明の炎で清める「道清の儀」も併せて行われま

す。神社では神輿渡御にそなえ、神輿を鴨川の水で清め、神様が通りになる道を炎で清めるためと説明されています。だが、これはおかしな話です。それなら三基の神輿すべてを清めなければいけませんし、神幸祭、還幸祭で三基の神輿が通る道すべてを炎で清める必要があるはず。第一、神輿の飾りを外す意味がわかりません。



神輿洗い 飾りを外した神輿一基に鴨川の水をかける

るわけです。道を清めるのはそこを鴨川の神輿が通りになるからで、一基だけなのは川の神輿だけがお乗りになるからで、神輿の飾りを外すのは本来と別の神輿が乗れるからでしょう。

この事を早く指摘した方もおられました。私は当たっていると書いています。かつて鴨川の神輿に約十日間だけ川への放埒を許された川床。現在は鴨川納涼床として五月一日から九月末まで行われ、夏の風情に欠かせない風物詩となっています。神輿も寛大になられたものです。

(京都・清遊の会 堤勇二)



夏の風物詩 鴨川納涼床の風情

これはこう考えるべきなのです。祇園祭とは八坂神社にお祀りされる三柱の神様がご自分の氏子区域を巡回され(神幸祭)、一週間だけ御旅所に移られ、またお戻りになる(還幸祭)神事です。つまりその一週間だけお社を留守にされるわけ、その間同じ水の神である鴨川の神様をお願いして八坂神社にお移りいただき、社を御守りいただくためのものではないでしょうか。鴨川の神様だからこそ川の水をかけ

るわけです。道を清めるのはそこを鴨川の神輿が通りになるからで、一基だけなのは川の神輿だけがお乗りになるからで、神輿の飾りを外すのは本来と別の神輿が乗れるからでしょう。



道清の儀 石段下から四条大橋まで大松明を担いで走り回る

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都
検定

京都観光文化検定試験
京都商工会議所